

令和4年度学生による授業評価にもとづく学長表彰

事前学習としての Learning Box の活用

リハビリテーション学科作業療法学専攻 野口 佑太

作業療法学専攻の2年次春期に身体障害評価学を開講しています。この科目では、身体機能を把握するための作業療法評価の考え方、基本的な評価方法や評価技術に関する講義を行います。しかし、2年になったばかりの学生にとっては、評価内容が専門的であり、イメージがしづらい状況にあります。そこで、評価内容をイメージしてから講義に参加できるように、短時間動画を用いた事前学習を Learning Box で実施しました。その結果、「動画があることで予習や復習に活用できて理解しやすい」、「いつでも見返すことができるからすごく役立つ」、「好きな時に好きな場所で学習できるのが良い」などの好意的な反応が得られました。今後も学生の理解が深まるように、自ら学びたいと思うような工夫をしていきたいと思っています。

学生授業評価高得点賞を受賞して

医療福祉学科臨床心理学専攻 綾野 眞理

1年生前期開講の「臨床心理学の基礎」に対して、このような輝かしい賞を頂き誠に光栄に思います。これも、一緒に授業をご担当くださった大橋明先生のお助けや、受講生の皆さんの意欲的な参加があったからこそです。心より感謝いたします。

この授業では、「教員や仲間と活発にやり取りをしながら学んでいくことの楽しさ」を体験してもらうことを意識し、それぞれ教員が各回を分担しつつ、毎回2人で授業に臨み、お互いにサポートするという体制をとりました。幸いオンライン開講でしたので、教員にとっても負担が少なく、和気藹々とした雰囲気の中、何より教員が楽しく授業を進めることができました。毎回のミニレポートからは、学生たちも楽しんでくれていることが伝わってきましたし、グループディスカッションもとても盛り上がっていました。

この授業での経験を活かし、これからも学生たちと共に楽しんで学ぶ姿勢を忘れずに、授業に取り組んでいきたいと思っています。

放射線治療技術学 授業への取り組みと工夫

放射線技術科学科 東出 了

放射線技術科学科3年生前期と後期の「放射線治療技術学1」と「放射線治療技術学2」の科目において2022年度「学生による授業評価アンケート」での高得点を取得し、学長表彰を受賞した。放射線治療技術学での授業への取り組みと工夫①～⑤について紹介する。

①「毎回の課題、小テスト、定期試験」にて勉強する機会の増加。②「2回の休憩タイム」による学生の集中力の維持。③「授業資料のわかりやすさ」と④「ラーニングボックスの充実」によって計算問題の理解や復習のサポート、複数選択問題での知識の定着。⑤「14回目授業のためのアンケート」で学生の知りたい内容や理解の不十分な範囲を払い上げ、定期試験に向けて学生に寄り添った授業内容。①～⑤の取り組みと工夫により、放射線治療における深部線量分布や線量計算を中心とした計算的理解、各部位の照射目的と照射方法を中心とした知識の習得が必要な両科目にて学生が満足する授業を実施できた。

子どもに関心をもち、主体的に学ぶ授業をめざして

看護学科 倉田 節子

「小児看護学概論」の授業における主な工夫として、【学生の質問を全体で共有する】：各授業後にリアクションカードを提出してもらい、学生の質問を次回授業開始時に全体に伝え解説しています。他の学生の質問を知ることで視点が広がり、理解が深まるとの意見が多く寄せられました。次に、【授業ノート、復習問題、小テスト】：子どもの各発達段階の特徴と日常生活について、書き込み式の「授業ノート」によって主体的に学習できるようにし、各授業最後には復習問題を設け、重要なことが形を変えて問われても理解できるようにしています。さらに、全体の授業前半と後半の範囲で小テストを2回実施し、知識が定着するようにしました。他には、子どもとの関わりの経験が少ない学生が子どものイメージ、子どもの世界を知る機会として、視聴覚教材やロールプレイを取り入れました。今後も子どもに関わる看護職の役割が理解できるように精進していきたいと思います。